

みなと物語



天下の台所「大坂」を ささえた 安治川の誕生

昔から水害の絶えなかった大坂の町。1684年（貞享元年）、幕府の命を受けた河村瑞賢は治水対策に乗り出します。淀川下流の水はけをよくするため、川の流れを遮っていた九条島の真中を削って新しい水路を開削。当時は新川とされていましたが、1698年（元禄11年）に淀川が「安けく治むる」という意味から「安治川」と命名されました。この掘削工事で出た土砂を積み上げてできた小山は「瑞賢山」の名で親しまれ、松が植えられ往来する船の目印となりました。また、高波を防ぐ役割を果たしたことから「波除山」とも呼ばれ、現在の地名の由来にもなりました。安治川の開削後、商いにやってきた諸国の廻船は大阪湾から安治川を上って直接、市中に入ることができるようになり川沿いの町は大きく発展します。両岸には新地が形成され、そこに安治川橋がかけられ多くの人々と品物であふれました。河口には港が築かれ、たくさんの船が停泊し「出船千艘（でふねせんそう）、入船千艘（いりふねせんそう）」といわれるほどのにぎわいだったそうです。

まさに新水路・安治川は大坂の玄関口だったんですね。



浪花百景「下安治川随見山」



浪華勝概帖「安治川橋」



菱垣新綿番船川口出帆之図（大阪城天守閣蔵）